



防災教育チャレンジプラン

「地域の文化財と防災教育」

富山県立南砺総合高等学校福野高等学校

永田 幸久

防災教育計画

1. 文化財防災リーダーの育成

防災委員会

2. 学校行事での取り組み

避難訓練

体育大会

巖浄閣企画展

1. 文化財防災リーダーの育成 (防災委員会)

第1回 巖浄閣の歴史と過去の災害について

第2回 液状化実験

第3回 施設面での備え(自室の見直し等)
(窓や家具の固定と巖浄閣の耐震構造)

第4回 巖浄閣の減災についての取り組み

第5回 クロスロードによる災害時想定

第6回 防災ポスター作成

第7回 郷土文化講座に参加
(世界文化遺産五箇山合掌集落の防災)

第8回 防災コーナー展示(文化展発表)

第9回 心肺蘇生法の講習

第1回 巖浄閣の歴史と過去の災害について

[1] 巖浄閣の歴史

島巖翁の遺言により、明治36年富山県立農学校校舎として設計施工され、昭和43年、現在の位置に移築・修復された。

そして、当時の吉田富山県知事を迎え、「巖浄閣」と命名された。島巖先生の、浄財によって建てられたというのが由来である。平成9年に国指定重要文化財(建第2335号)に指定された。



[2]過去の災害 風水害 (庄川)

発生日	発生原因	被災市町村	被害状況
昭和9年7月	集中豪雨	大門町	死者 20人
		負傷者	240人
		流失家屋	94棟
		民家破損	5418棟
		浸水家屋	4009棟
昭和25年9月	ジェーン台風	高岡市射水	死者 4人
		負傷者	158人
		住家全半壊	986棟
		床上浸水	27棟
		床下浸水	1095棟
		橋梁流失	61ヶ所
昭和51年9月	台風17号	流失家屋	8棟
		浸水家屋	42棟
		加越能鉄道橋落橋	
昭和58年9月	台風10号	浸水家屋	15棟
昭和60年6月	梅雨前線	床下浸水	9棟
平成16年10月	台風23号	民家破損	防風林壊滅

地震



「天正の大地震」 M7.8
1586年1月(安土桃山時代)
・福岡町の木船城で、城主の前田秀次や家臣が多数圧死。

「安政の大地震」 M7.1
1858年4月(江戸時代)
・跡津川断層が震源。
・高岡で地割れ、富山城の石垣や門が破損。
・立山カルデラ内の大鷲山と小鷲山が崩れ、土砂が川をせき止め、2週間後の地震でその土砂が崩れ、大洪水となり、家屋が流失・倒壊し、140人が犠牲になった。



● 生徒の意見、感想

富山県だけでも36の活断層があることに驚いた。しかも、今後30年以内にM7程度の地震が起きる確率は6%だが、それは意外に高く、大災害を身近に考えなければいけないなと思った。



中学校の総合の時間に地震について調べたけど、阪神大震災というあんなにも大きなもので0.4%～8%だったことにびっくりした。

砺波平野断層帯の東部でも6%もあるのだから、少しずつ行動していかなければならないと思った。今はどうすればいいかわからないけれど、少しでも災害から身を守る方法を知り、あわてずに動けるようになりたい。

風水害の起こる間隔がどんどん短くなって来ていることに驚きました。近くに庄川があるので日頃から備えておく必要があると感じた。

第2回 液状化実験

[1] 実験 (横から軽くたたく) 器の表面に水が浮き出てくる。

< 日常の現象 > グラウンドで雨の後、足踏みしていると、トロトロになってくる。

< 地震時の現象 > 水や泥があふれてくる。そして、乾くと空気を汚染する。

[2] 実験 (ピンポン球を埋め
水槽をたたく)
ピンポン球が浮き出る。

< 地震時の現象 > マンホールやガス
管が浮き上がる。

[3] 実験 (物を建て水槽を
たたく)
建物の模型が倒れる。

< 地震時の現象 > 建物は沈むか倒れる。



実験の感想

- ・実験1で、水が表面に出てくるのは驚きだった。
- ・この水槽がもし地球だったら、様々な予想しにくい被害が起きると思った。
- ・人間の作ったものは自然の前ではとてももろいものだと思った。

第3回

施設面での備え1(減災)

[1]地震により引き起こされる危険 例・タンスや本棚などの家具が倒れてくる。

生徒の意見

家が崩れ下敷きになる。 窓ガラスや食器が割れる。
水道が止まる。水道管が破裂する。
津波 火事 地割れ(雪崩)(断層は多く存在する) 土砂崩れ
屋根瓦や看板が落ちる。 電柱(木)が倒れる。 ビルが倒れる。

[2]それらの被害を最小限に食い止めるには？

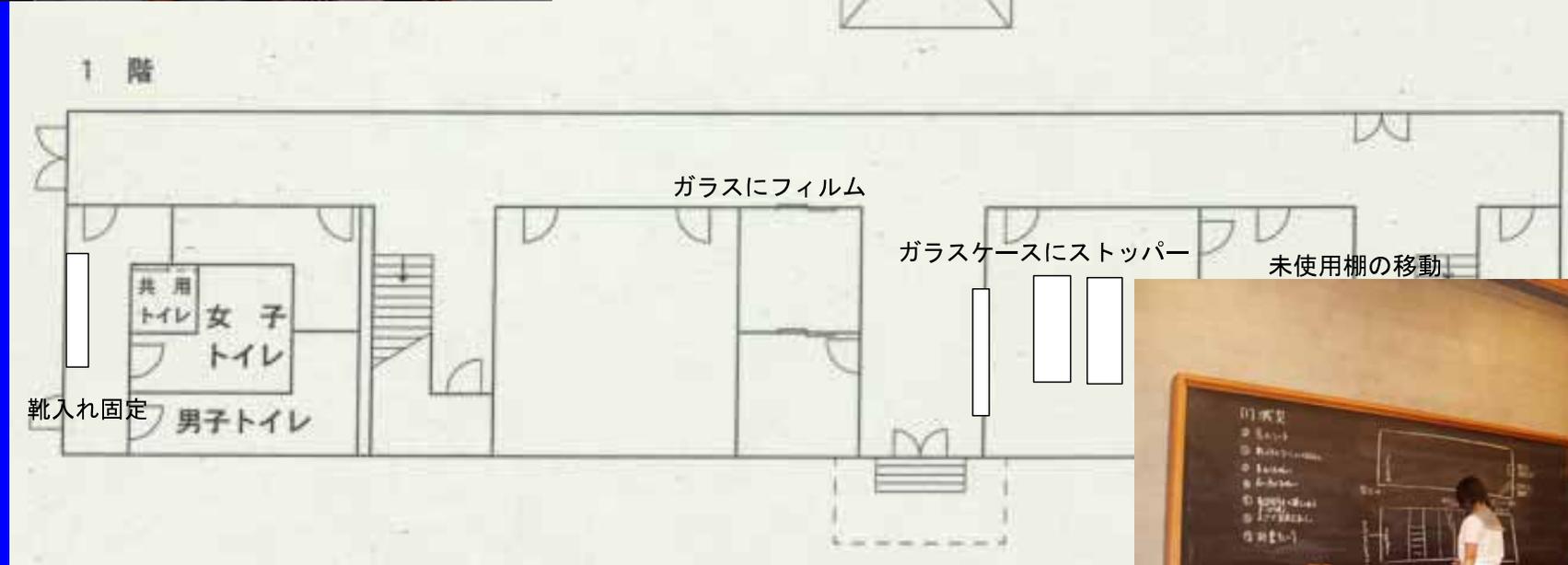
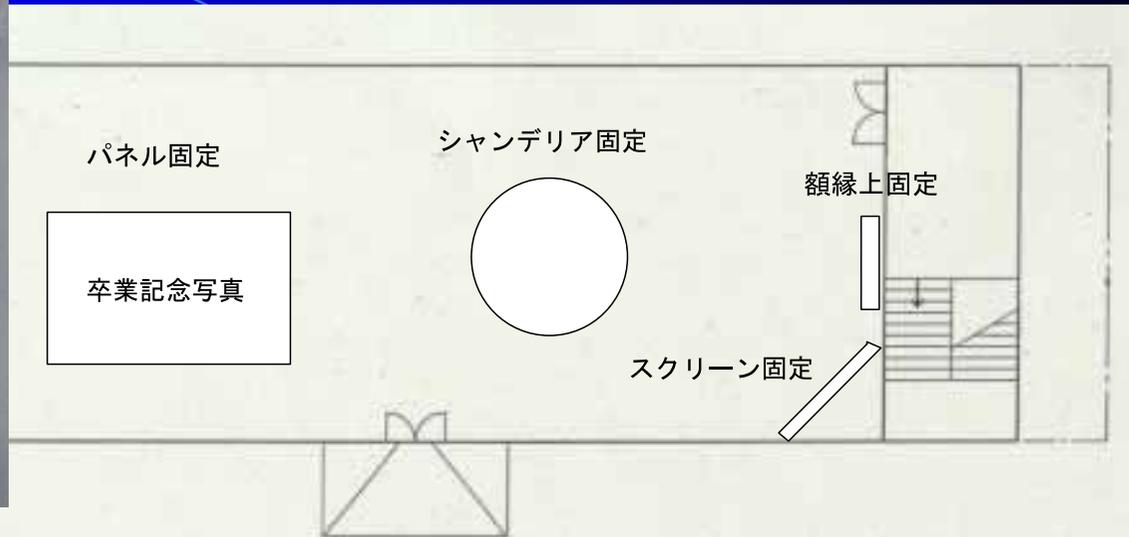
例・家具を壁や天井に固定する。

生徒の意見

窓にシートを貼る。机の下に衝撃を和らげるクッションとなるものを付ける。
物を重ねて棚に入れない。高い所に物を置かない。
棚には転倒防止の突っ張り棒を入れる。
テーブルや棚をねじで固定する。
耐震チェック(業者)をする。



巖浄閣にできる備え



第4回

施設面での備え2 (巖浄閣の減災実施)

1. 期 日 7月13日(木)
2. 場 所 巖浄閣
3. 内 容 防災委員による巖浄閣内窓のガラスのフィルム張り
4. 用意するもの
防災フィルム、スプレー、
中性洗剤、カッター、新聞紙、
物差し、軍手、雑巾





第5回 クロスロード

災害対応時のジレンマを伴う重大な決断の場面を想定し、自らの問題として考え、かつ、自分とは異なる意見・価値観の存在に気づかせる。

方法

- (1) 問題カードを読み上げ、意見を個人カードに記入し、イエスかノーのカードを選ぶ。
- (2) 全員がカードを置いたら一斉にカードを表に向ける。
- (3) 多数派が、景品を獲得
- (4) グループで、話し合いをする。



クロスロード



	立場	シレンマ	Yes	No	生徒の 考え
1	川沿いの家の住民	深夜2時豪雨で避難勧告。避難するか。	4+4		少しでも早いほうが安全。危険だから勧告が出る。
				1+1	暗く状況もわからないので危ないので待つ。
2	父(上司)	会社で地震。交通も麻痺。部下への対応か帰宅か。	1+2		責任ある役職。すぐ帰ると理解ある家族なら逆にしかられる。
				4+3	家族の方が大切。部下は大人。
3	被災者	見舞いに来た同級生から宗教への勧誘。のる？	0		
				5+5	精神が不安定なので、危ないところについて行かない。のんきなことを言ってもらえない。

	立場	ジレンマ	Yes	No	生徒の考え
4	被災者	避難所で3日分しかない水と食料をあけるか。	0+3		何人かに分ける。腐ったら困る。持ってない人が悪い。
				5+2	余裕はないので陰で食べる。みんなと同じように我慢する。周りに申し訳ない。
5	夫婦	新築マンションの家具に耐震の器具をつけるか。	5+4		安全第一。死ぬよりまし。見かけはカバーできるが命はカバーできない。目立たないようにつける。
				0+1	新しいお気に入りの家具に傷をつけたくない。
6	受験生	避難所で受験勉強か仕事を手伝うか。	2+4		合格したいなら、その選択をすべき。受験は人生の中の大きなはじめ。仕事は他にも頼める人がいる。勉強しなきゃ落ちる。
				3+1	みんなが苦しんでいるので協力すべき。大変なときに勉強どころではない。

	立場	ジレンマ	Yes	No	生徒の考え
7	市民	避難所に飼い犬を連れて行くか。	2+4		犬も家族なので見捨てることはできない。命を大切にしなければならない。家では死んでしまう。
				3+1	犬嫌いの人もある。別の安全な場所においておけばよい。
8	市民	ボランティア保険は自治体負担か個人負担か。	4+5		ボランティアは利益を目的としない活動なので、保険まで負担はかけられない。
				1+0	困ったときはお互い様。
9	被災者	祖母の体調が悪い。自宅は電気がつく。避難所なら医者がいる。	0+0		
				5+5	何があるかわからないので、医者がいる方が心強い。家族の体が大切。良くなったらもどる。
10	市民	飛ぶような売れ行きの商品の在庫がかなりある。社長からはただで提供せよ。	4+2		上司の命令に従う。自分ばかり得はよくない。会社のイメージアップで社会の信頼が得られる。
				1+3	他に買ってくれる人がいるので、そこに売る。会社が倒産する。

クロスロードの考察

- 結果が予想外だったジレンマ



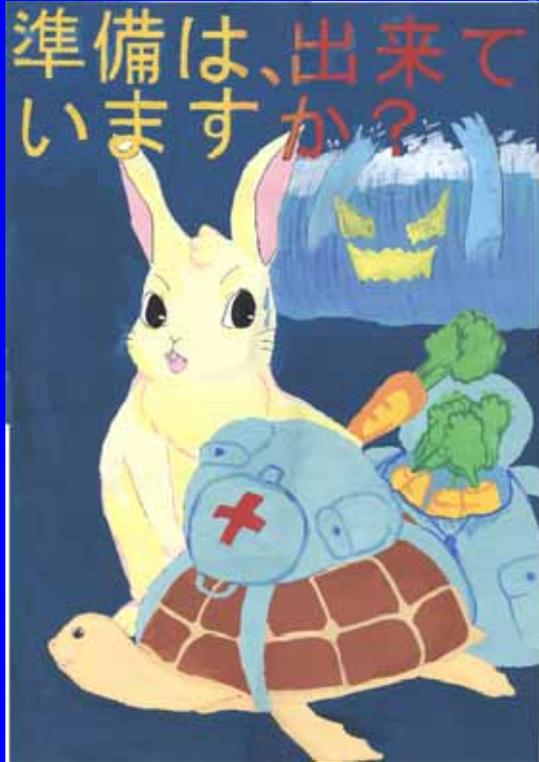
	ジレンマ	自分の答え	感想
1	川沿いで深夜の避難勧告。	待機	深夜2時は暗いし眠くて体が動かない。 大雨で状況もよくわからない。周りが見えず余計危険。
2	地震で交通麻痺。課長として社員の対応が優先か家族の安否が優先か。	社員への対応	社員でなく課長である。
4	3日分の食料を避難所で開封。	しない	反対の立場で、自分の目の前で開封されたら羨ましくなってしまうのに意外。

● 結果が予想外だったジレンマ

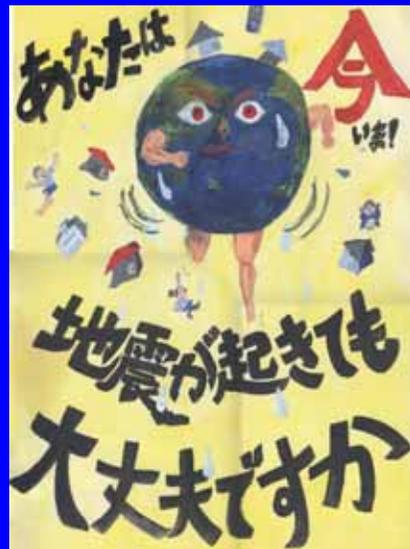
	ジレンマ	自分の答え	感想
6	受験勉強か手伝いか 	受験勉強 手伝い	ボランティアに人生を捧げるなら別だが、今年合格したいなら、自分の人生を選択すべき。 避難所で自分だけ勉強はできない。
7	犬を避難所へ連れて行くか。	連れて行く	犬も立派な生き物で、しかも大切な家族なのに、置いていくというのには驚いた。
10	ヒット商品の在庫をただで提供するか。	提供	経営が危なくなるのに、会社のイメージが良くなると「提供する」が多かったのは意外。

迷ったジレンマ

	ジレンマ	迷った点
2	地震で交通麻痺。課長として社員の対応が優先か家族の安否が優先か。	社員なら家族をとる。上司としてでも家族も気になる。家族に連絡が取れるかどうかが問題。
4	3日分の食料を避難所で開封。	みんな非常食ぐらい備えてほしい。
7	犬を避難所へ連れて行くか。	季節や犬の体調や年齢による。小型犬でしつけができていたらよい。
8	ボランティア保険は自治体負担か個人負担か。	地震の規模やボランティアの人数にもよる。
10	ヒット商品の在庫をただで提供するか。	会社が儲かっているなら良い。経営状態による。



第6回 防災ポスター



第7回 世界文化遺産見学

[1] 文化財の防災



どのような工夫がなされていたか。

- ・放水銃で水のカーテンを作り被害拡大を防ぐ。
- ・放水銃は縦長の箱の中に設置。(豪雪対策)
- ・屋根と地面の間は必ず開けておく。(雪が落ちないと天井がつぶれる。)
- ・雪の重みに耐えられるよう、曲がった柱を天井に使用し強度を増している。
- ・雪がたまりにくいように、屋根が急傾斜で、雪降るしも頻繁にする。

放水銃体験



[2] 民謡体験講座



第8回 防災コーナー作り(文化展)



[1] 目的

今までの取り組みをまとめ、防災委員としての自覚を高めるとともに、多くの方々に文化財へ親しみを持ってもらうことにより、防災についての意識を高める。

[2] 方法

過去の災害について調べる。
現在起こると、どのような危険が考えられるか。(特に巖浄閣において) 対策を考える。

[3] 発表

それぞれの班で観点(棚やガラスの損傷、パネルの固定等)を一つ決める。ガンピ等の紙上発表だけでなく、実験や模型等も作る。



第9回 心肺蘇生法の講習

[1] 目的

非常時に備え、防災リーダーがAEDの使用目的を学び、使用方法を習得する。

[2] 講師 福野消防署 救命救急士

[3] 日時 1月19日(金) 16:00 ~ 17:00

[4] 場所 巖浄閣

[5] 方法

救命救急士からAEDの説明、使用する状況、使用の仕方、留意点を学ぶ。

心肺蘇生講習



2. 学校行事での取り組み

[避難訓練]



[防災レース(体育大会)]



[巖浄閣企画展]

目的

生徒や地域住民の文化財への理解を深めるため、巖浄閣において企画展を開催する。



パンフレット



芸術
第1回文展で入選した画家 **五島 健三** (1886-1946)

本校卒業生の中で、農学校を卒業して現在の東京芸大(旧東京美術学校)に入学した人は、校長島正正(大正11年卒)氏と五島健三(明治35年卒)氏の二人だけである。五島健三は本校を卒業し進学した東京美術学校で、当時の洋画壇の大御所である岡田三郎助に師事し、明治40年10月に日展の前身である文部省美術展覧会(通称文展)第1回に出展した『観想』で、富山県人として初の入選を果たした。

美術学校卒業後は、郡内の中学校や鹿児島師範学校、第七高等学校などで教鞭をとりながら画業に励み、大正5年の10回展でも『薪竈』で入選した。今年には、生誕120周年にあたる。

文展で入選した『観想』

農業
砺波地方の農事先覚者 **中島 久正** (1890-1953)

明治41年本校を卒業後、都農会技師あるいは参事として活躍。昭和2年3月4日、両砺波郡の精農家多数を集めて、『北日本種苗協会』を設立。農林省の指導下で種苗改良と農作物の品種改良と優良品種の普及を目的とし、種苗交換会などの事業を通して農家の進歩発展に一身を捧げた。

同年の7月29日、第1回の農業短期大学を開校。3日間の講習は連日400余名の参加者が集まり、成果をあげて終了した。

本校を会場とした農業短期大学の成功は、やがて県内各地に広がり、農業関係学校を会場とする同様な申しを誘い、昭和38年まで続いた。

昭和28年10月に病没された氏の遺徳を称える有志多数の募金によって、昭和30年に体育館跡地に石碑が建立された。

中島久正氏の顕彰碑

文学
本県初の芥川賞候補になった作家 **岩倉 政治** (1903-2000)

大正9年に本校を卒業。昭和14年雑誌『和性』に『短病(いもぢ)』を発表し作家生活に入った。この作品が本県初の第9回芥川賞候補となり、一躍脚光を浴びた。その後昭和16年『村長日記』で日本農民文学賞を獲得。既刊の作品は多くの芥川賞、芥川賞、芥川賞であった。

戦後は富山市に住み児童文学、戯曲、時代小説などに手を広げ、再出発した。中でも昭和22年に発表された『空気がなる日』は傑作であるとの評価が高く、映画化もされた。晩年は地元に着目した作品を多く著し大作『無名の記(三思本)』を発表するなど筆耕に健筆をふるった。

昭和50年代の政治

岩倉政治の著作

今回の企画展開催にあたり、御三家の遺族の皆様をはじめ、多くの方々から大切な作品、資料を御提供し、また貴重なご意見をいただきました。心より御礼申し上げます。

〔敬称略・50音順〕
石岡義夫、岩倉高子、岩倉雅一、大村孝子、小澤淳子、齋藤善夫、時文信子、中島 久、広瀬隆夫、松井州一
株式会社日本郵政、富山新聞社、富山県立図書館、富山県立近代美術館、富山県立図書館、富山県立中央図書館、富山県立中央図書館、富山県立中央図書館、富山県立中央図書館

職員研修



第5回防災委員会までの経過報告
液状化実験の実演
第6回以降の計画

防災教育チャレンジプラン校内発表



芸術鑑賞会(巖浄閣)

- 選択芸術の作品を巖浄閣に展示
- 全員で鑑賞し、作品に関する感想を書く。



次年度に向けて

- 来年度は、巖浄閣の地震対策だけでなく、火災や風水雪害にもスポットを当て、予算の許す限りで取り組むことを考えています。